

第三者評価におけるシナリオテストプロセスの提案

SQiP 第5分科会 グループB

ソニー株式会社 風間淳一
近藤大輔

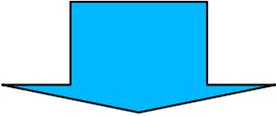
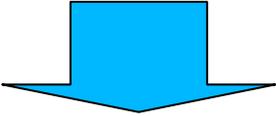
概要

- 第三者評価におけるシナリオテストでの課題
- テスト設計者ごとのばらつきを抑えるための提案
- 従来方法との比較

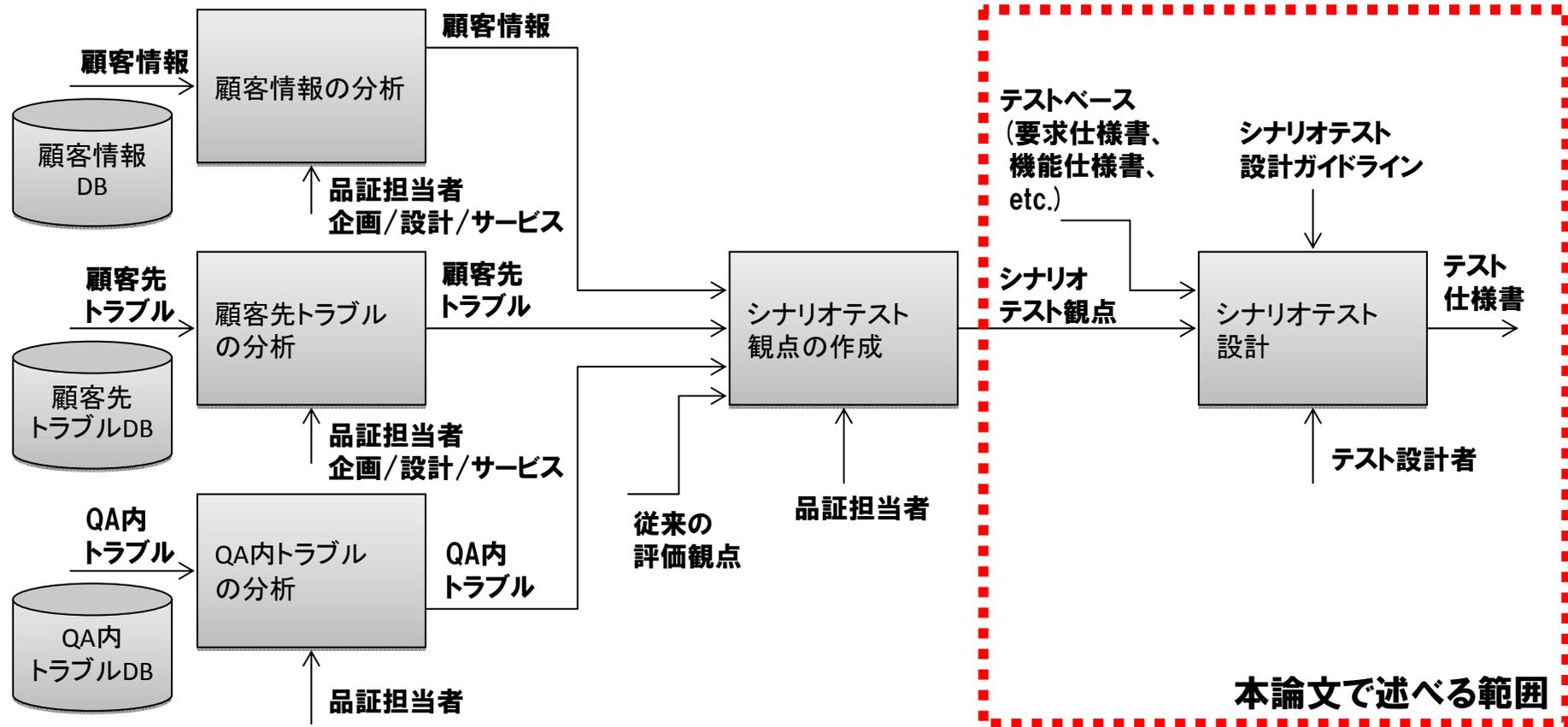
1. 背景・前提

- 対象となる部署
 - 設計部署とは独立
 - ミッション: 第三者評価
- 対象となるテスト
 - シナリオテストの設計・実施
 - 目的: 最終的な品質保証

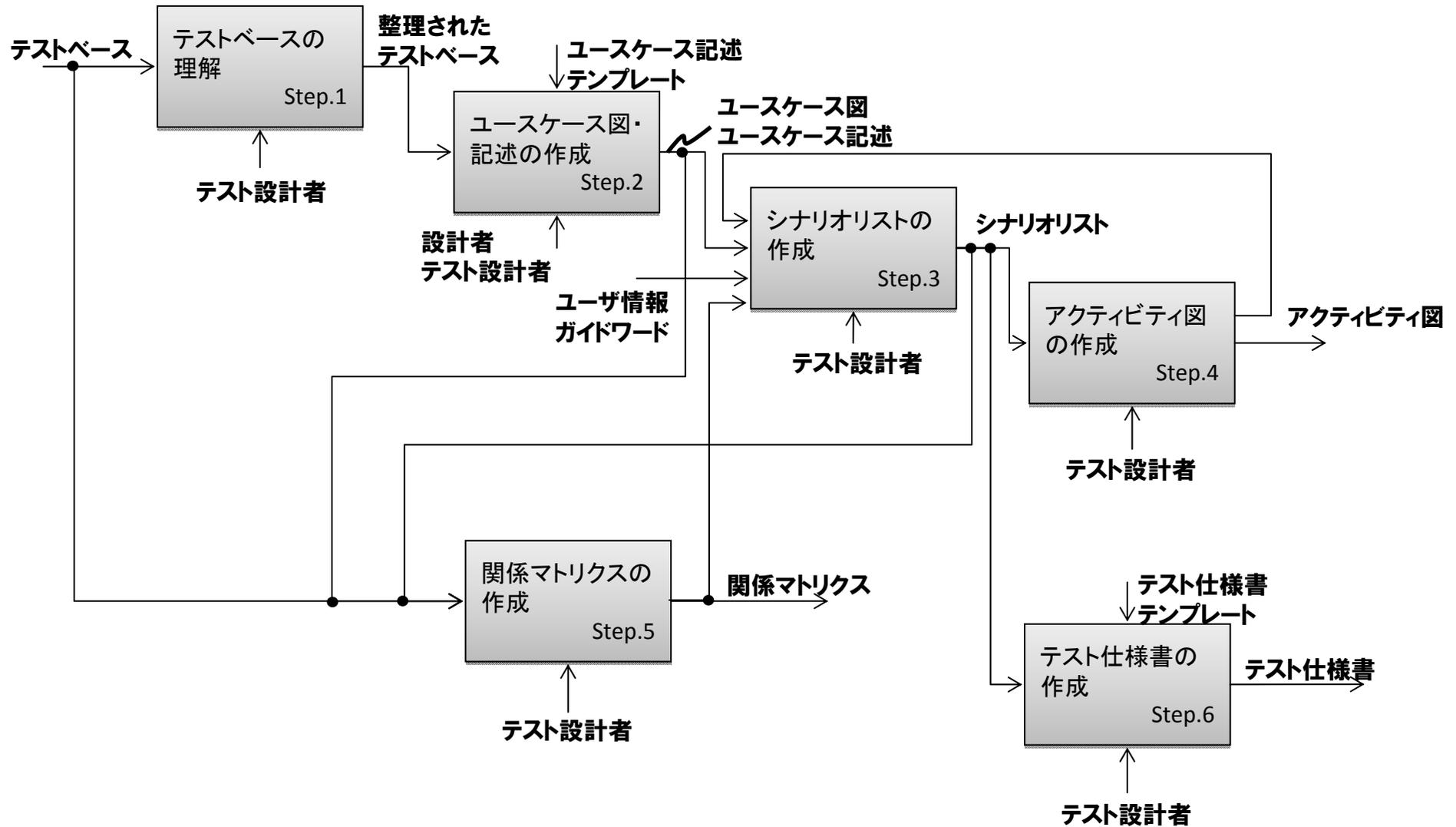
2. シナリオテストを行う上での課題

- テスト担当者によるばらつき
 - テストプロセス全体が不明確
- 
- アウトプット等がテスト設計者のスキルに依存
- 
- テスト設計者ごとに、レビューにかかる時間等にばらつき発生

3. シナリオテストの全体像と提案する範囲



3. シナリオテスト設計フロー



Step.1 テストベースの理解

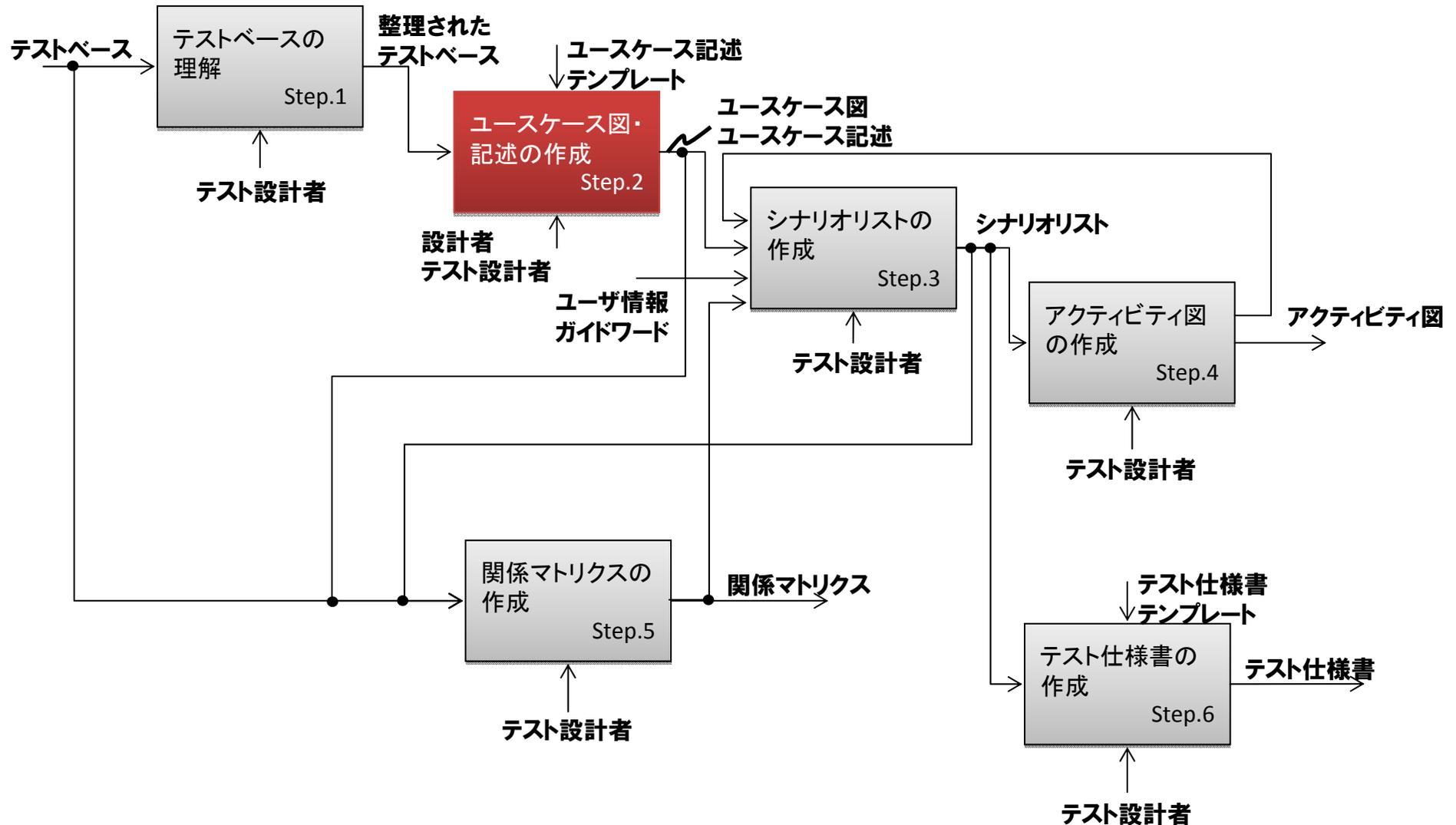
インプット： テストベース

アウトプット：整理されたテストベース

終了条件： 基本的なフローが明らかに
なっており、漏れがないこと

- 顧客の要求、基本的なフローを理解

Step.2 ユースケース図・記述の作成



Step.2 ユースケース図・記述の作成

インプット：整理されたテストベース

制約：ユースケース記述テンプレート

アウトプット：ユースケース図、ユースケース記述

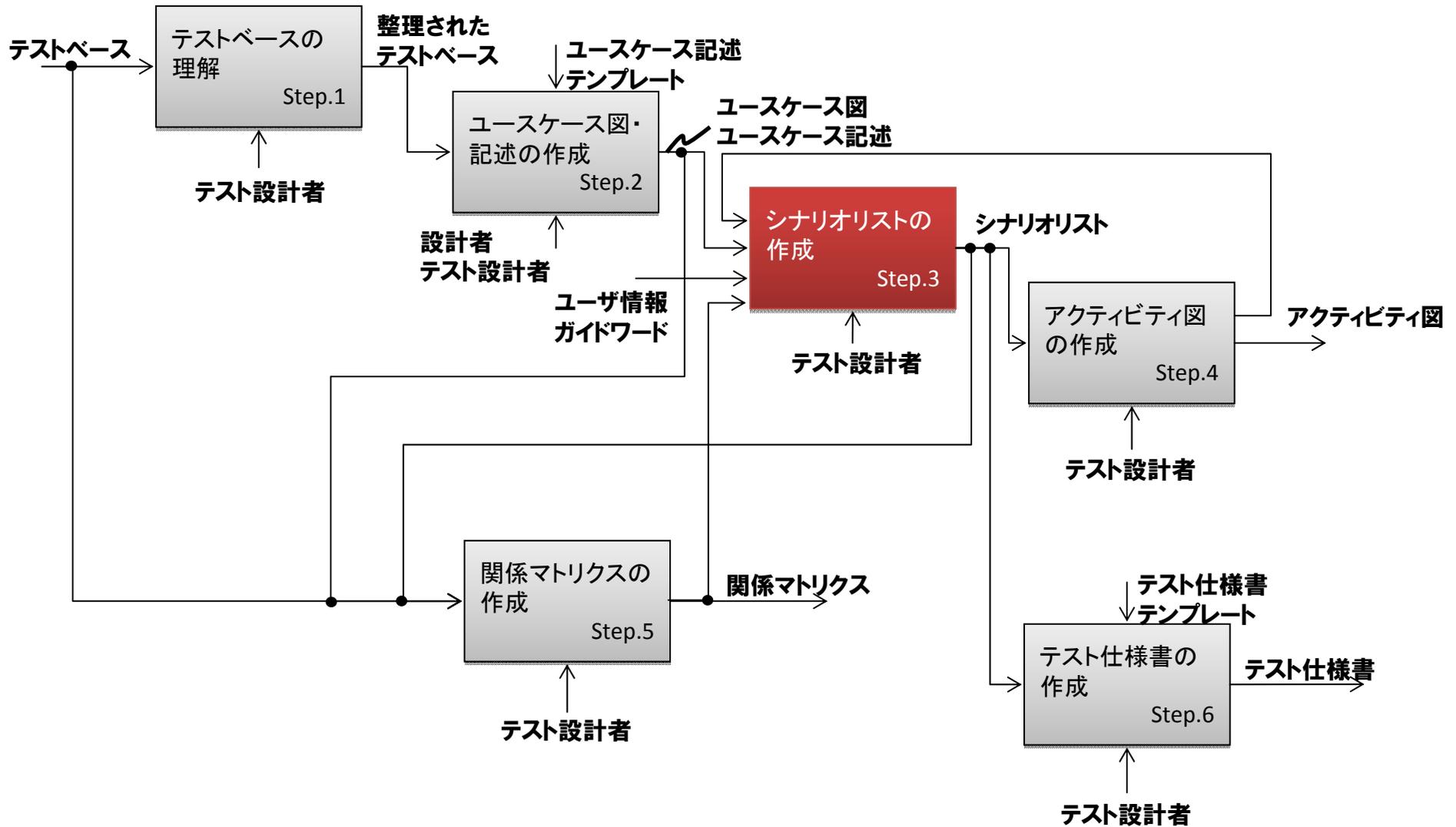
終了条件：すべてのインプットを網羅する
ユースケース図等

- 顧客視点でシステムの使われ方を整理/分割

Usecase名：	
概要：	
アクター：	
事前条件：	
事後条件：	
メインフロー：	

ユースケース記述テンプレート

Step.3 シナリオリストの作成



Step.3 シナリオリストの作成

インプット： ユースケース図、ユースケース記述等

アウトプット：シナリオリスト

終了条件： シナリオリストの網羅性等

- 実運用として想定される流れとなるようにユースケースを組み合わせる

ID	フロー種別	ユーザー	内容	関連するユースケース

シナリオリスト

Step.4 アクティビティ図の作成

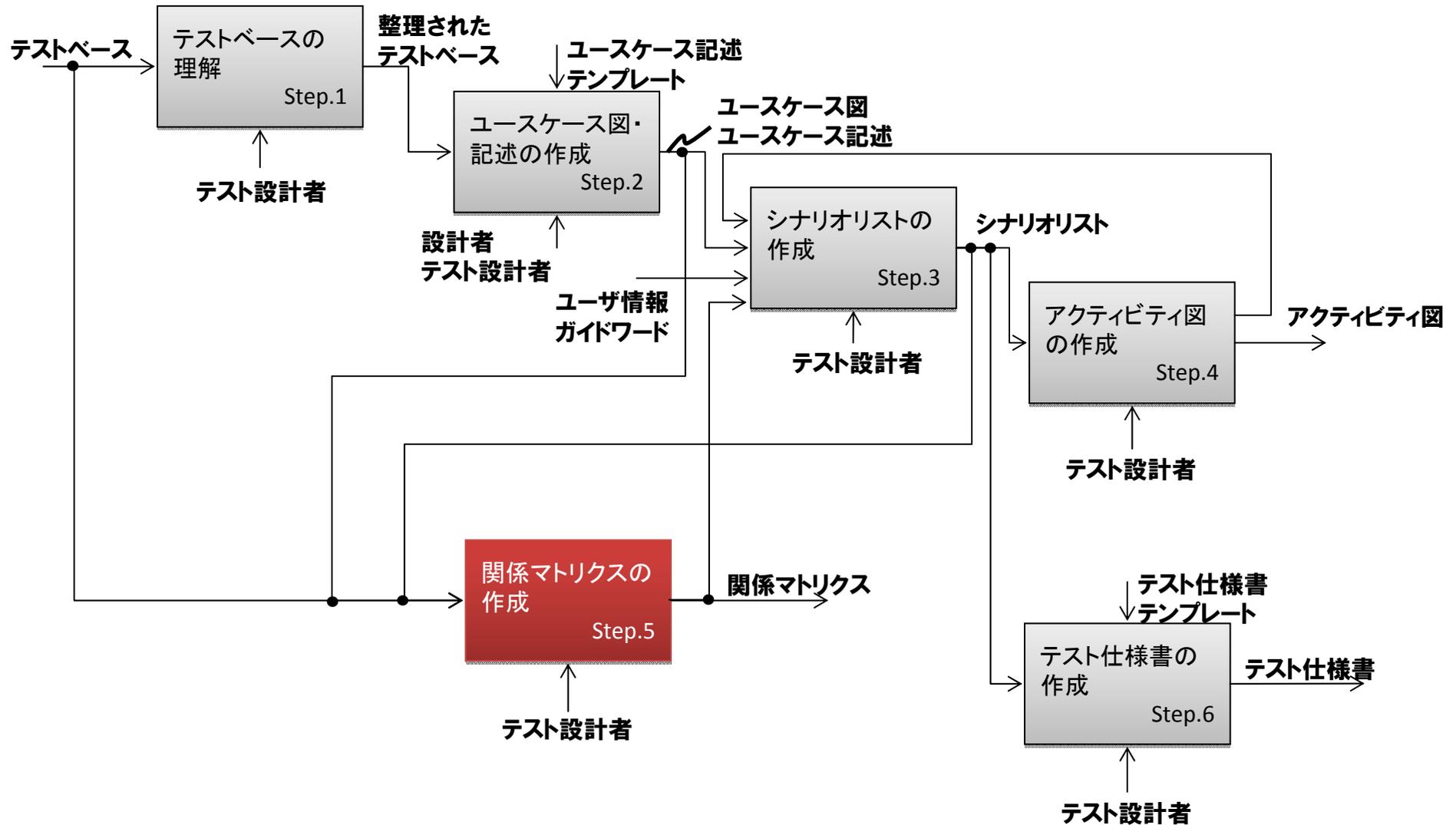
インプット： シナリオリスト

アウトプット： アクティビティ図

終了条件： シナリオリストを網羅した
アクティビティ図

- アクティビティ図により、シナリオ全体を俯瞰
- 気づいた抜け漏れをStep.3にフィードバック

Step.5 関係マトリクスの作成



Step.5 関係マトリクスの作成

インプット： テストベース、シナリオリスト

アウトプット：関係マトリクス

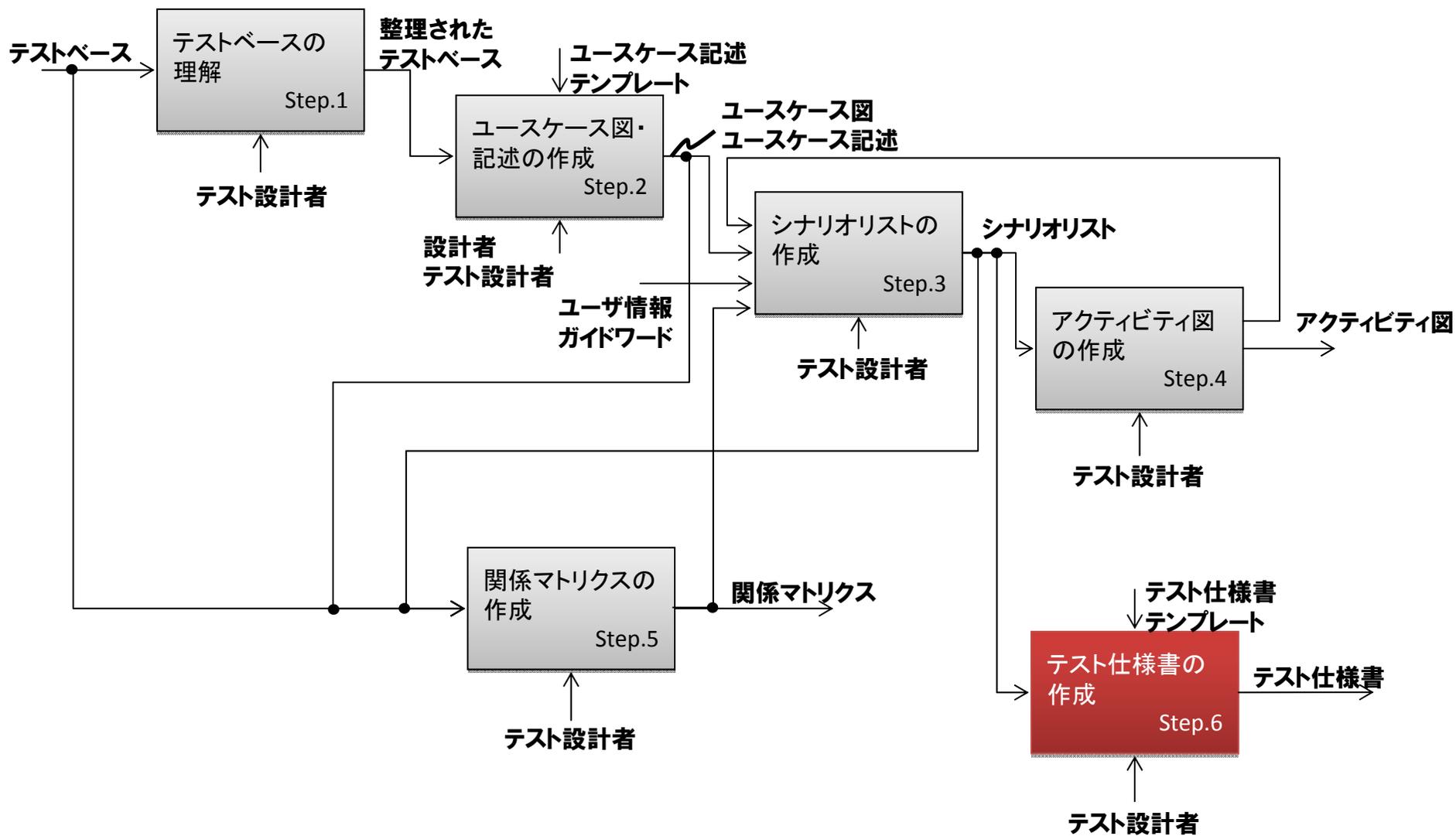
終了条件： 機能/顧客要求/ユースケース/
障害の網羅

- シナリオとテストベースとの網羅度合いを俯瞰

	sin_01	sin_02	sin_03
機能01			
機能02			
機能03			
機能04			

シナリオ×機能の関係マトリクス

Step.6 テストケースの作成



Step.6 テストケースの作成

インプット： シナリオリスト、ユースケース図、
ユースケース記述

制約： テストケーステンプレート

アウトプット：テストケース

終了条件： シナリオリストの網羅

- シナリオリストから、テストケースを作成

ID:	
目的:	
条件:	
操作:	
テスト結果:	
コメント:	

テストケーステンプレート

4. 従来の方法との比較

	従来方法	提案方法	提案方法のメリット
分析のアウトプット	文章	文章+図	ユースケースの関連性が明確 →設計がしやすい
テスト設計	いきなりテストケース作成	リスト、図で検討	アクティビティ図で全体の流れを俯瞰できる →レビューがしやすい
妥当性確認	特になし	関係マトリクス	網羅確認が可能 →抜け漏れを確認しやすい

4. 従来の方法との比較

	従来方法	提案方法	提案方法の課題
工数	1週間	1週間 +2~3日程度	50%ほど工数増加
適応化	不要	必要	テスト対象にあった形で適用する必要あり

5. まとめ

- 課題: テスト担当者ごとのばらつき
- 設計プロセスを具体的に定義
- 従来方法との比較
 - アウトプットがより明確になる
 - 抜け漏れが確認しやすい
- ➡ テスト担当者ごとのばらつき抑制
- 今後の課題
 - 実際の案件への適用
 - 更なる効率化

以上